

子どもの生存と発達

ユニセフは、「子どもの生存と発達」を子どもが持つ第一の権利として掲げています。年間 970 万人以上の子どもたちが 5 歳の誕生日を迎える前に命を落としています。新生児および幼い子どもの 3 分の 2 (毎年約 600 万人) は予防可能な原因 (下痢や栄養不良など) で亡くなっています。

子どもの生存に関する基礎データ

- 世界で 5 歳未満児の年間死亡数: 約 970 万人 (2007 年)
- 世界で 5 歳未満児の一日当たりの死亡数: 約 2 万 6,000 人あまり (2007 年)
- 新生児死亡率 (出生時から生後 28 日以内に死亡する確率): 出生 1,000 人あたり 30 人 (2000 年)
- 年間出生数: 1 億 3,300 万人 (2005 年)

5 歳未満児の主な死亡原因 (2000 年～2003 年)

- 新生児 (生後 28 日以内に何らかの原因による死亡: 37%、うち重度の肺炎と敗血症による死亡: 26%)
 - 肺炎: 19 %
 - 下痢性の病気: 17%
 - マラリア: 8%
 - はしか: 4%
 - HIV/エイズ: 3%
 - その他の病気もしくはけが: 13%
- 栄養不良に関連した原因による 5 歳未満児の死亡率: 53%
 - 子どもの死亡の 94 パーセントは 60 カ国に集中している (2004 年)
 - 5 歳未満児の死亡率が高い地域: 西アフリカと中央アフリカ (1,000 人あたり 190 人)
 - 5 歳未満児の死亡率がもっとも高い国: シエラレオネ (1,000 人あたり 282 人)
 - 西アフリカおよび中央アフリカの 11 カ国で実施されているユニセフの包括的保健戦略「ACSD: Accelerated Child Survival and Development」の初期結果では、2002 年から 2004 年の間で 5 歳未満児の死亡率が 20% 減少

⇒ ユニセフの包括的保健戦略「ACSD」について詳しくは日本ユニセフ協会のホームページへ
<http://www.unicef.or.jp/campaign/0612/wincamp3.html>

(2007 年 4 月)